

911.3

7"

車  
本  
言

幻遊庵真佛坊先生評



月美句集

癸卯七月分

巴連

叶 卷之五 第... 卷之五

叶 卷之五 第... 卷之五

卷之五 第... 卷之五

叶 卷之五 第... 卷之五

卷之五 第... 卷之五

叶 卷之五 第... 卷之五

叶 卷之五 第... 卷之五

叶 卷之五 第... 卷之五

叶 卷之五 第... 卷之五









桐書は柿の葉に紅く  
赤くもなりけり  
秋の聲  
...

丸五五  
...

メテ  
カ  
三ノ  
下ナ  
カ  
...

文泉宗素殊九無柿  
笑宗泉山声宛石旭菊床

初秋の又出で  
...

テ  
六ノ  
...

鳩全玄泉宗  
...

侍のあまみさるの面や秋の空

全

悪髪を切る髪切思ふは縁の春

要レニ

秋の暮らるるも初く半

か

後あるものさうやう

い

培やするの味く一文

宗

濁りハ底うさめりきりす

宗

魂根の中を思ふも底の音

泉

白きやうは赤きやうは七

泉

秋の空ついでさうさう

泉

初秋やさうり静夜夏の空

泉

とら秋やうも流る水

泉

海受介

夕秋の左派

夕月や不二山

晴雪

太辰庵桂和軒 月並二百合

十月七日

天

夕月や不二山

晴雪

地

六印二夕二夫一白

花月女

人

七印一白一夫一白

草

外 去月 千画 茶文 不及 着戻

六島

夕月や不二山 夕秋の左派 夕月や不二山 夕秋の左派

夕月や不二山 夕秋の左派 夕月や不二山 夕秋の左派









あつたやうな感じ

世に多々の物あり

さういふ感じあり

さういふ感じあり

さういふ感じあり

さういふ感じあり

さういふ感じあり

さういふ感じあり

さういふ感じあり

さういふ感じあり

さういふ感じあり

東園子

茶文

茶書

茶書

茶書

茶書

茶書

茶書

茶書

茶書

茶書

遊庵

遊庵魚佛坊先生評

月美句集

癸卯 八月分

巴連





新の... 戸の... 秋の... 木の... 葉の... 露の... 霜の... 雪の... 氷の... 雪の... 氷の... 雪の... 氷の...

山頂... 石丁... 津川... 神田... 小倉... 横... 熊手... 赤川... 赤川... 赤川... 赤川...

秋の... 木の... 葉の... 露の... 霜の... 雪の... 氷の... 雪の... 氷の... 雪の... 氷の...

秋の... 木の... 葉の... 露の... 霜の... 雪の... 氷の... 雪の... 氷の... 雪の... 氷の...

山頂... 石丁... 津川... 神田... 小倉... 横... 熊手... 赤川... 赤川... 赤川... 赤川...

秋の... 木の... 葉の... 露の... 霜の... 雪の... 氷の... 雪の... 氷の... 雪の... 氷の...

味一平 珍能の号の 飾れ 号  
 秋長ら 成りり 徳をのり 成ら  
 根ハ ありありと ありあり 苦く あり

持て ありありと ありありの 中ま ずり  
 ありありと ありありと ありありと ありありと  
 ありありと ありありと ありありと ありありと

依、松、山  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、

依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、

持て ありありと ありありと ありありと ありありと  
 ありありと ありありと ありありと ありありと

依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、  
 依、松、山、







... (右ページ) ...  
 ... (右ページ) ...  
 ... (右ページ) ...

徳山 松尾 西原 赤松  
 石ノ下 北見 松尾 赤松  
 ... (右ページ) ...

... (左ページ) ...  
 ... (左ページ) ...  
 ... (左ページ) ...

... (左ページ) ...  
 ... (左ページ) ...  
 ... (左ページ) ...











少の改や 暮らんはやくみきふ  
月午に花を挿し伸しく  
田の中を一小一塔あり  
形もなかり 哪 花を  
借てハとやうといふも秋の空  
芒野や根のなき雲北似り  
暮るりや秋のうらも山根  
稀書のの向へつ小 あり  
芳心書のの表裏まきり 糸糸の音  
響きや 妙り 妙り 妙り  
秋の川に流るるてりて流るる  
秋先平まらば流るるてりて  
望まハ向ひて之て 初 時 雨  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山  
糸を挿す所は山の木の葉  
善松樹の葉をさへて秋さ  
莫中や 村端又もなせり  
ふたふた 鳴きや 葉の花 花  
鳴るるや 葉の花の可  
落るるや 葉の花の可  
笑らるるて 母も又も笑らるる  
伴旅の席に挿して有りて  
名月や 戸口まで出て一人り  
ふたふたのたふたふたのたふた

カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ  
カ

織松十圃大分程子金花大芝席秋元陸全市每屋全頂全  
杉茂心泉改 言株 曉 蔓 虎 泉 女 丸 舌 人 人 種 孫 孫

葉月の花 暮らんはやくみきふ  
月午に花を挿し伸しく  
田の中を一小一塔あり  
形もなかり 哪 花を  
借てハとやうといふも秋の空  
芒野や根のなき雲北似り  
暮るりや秋のうらも山根  
稀書のの向へつ小 あり  
芳心書のの表裏まきり 糸糸の音  
響きや 妙り 妙り 妙り  
秋の川に流るるてりて流るる  
秋先平まらば流るるてりて  
望まハ向ひて之て 初 時 雨  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山  
糸を挿す所は山の木の葉  
善松樹の葉をさへて秋さ  
莫中や 村端又もなせり  
ふたふた 鳴きや 葉の花 花  
鳴るるや 葉の花の可  
落るるや 葉の花の可  
笑らるるて 母も又も笑らるる  
伴旅の席に挿して有りて  
名月や 戸口まで出て一人り  
ふたふたのたふたふたのたふた

川  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ

和全龜全鳥全樹全亭  
松全梅全松全松全松  
林全松全松全松全松  
松全梅全松全松全松



叶 尾月 梓山 （かま 彦考 板二 四十一）

〇 五三 梓 煙 <sup>た</sup> 里 湖 <sup>た</sup> 穴 <sup>た</sup> 心 <sup>た</sup> （表の真字拾三章）

〇 叶 籠 古 歌 集 蘇 冠 （かま 彦考 板二 四十一）

葉乃乃之之記...  
 〇 葉乃乃之之記...

後高  
 漢高  
 甲府  
 加食  
 總念  
 孫粟  
 然高  
 吳素  
 持筆

〇 葉乃乃之之記...  
 〇 葉乃乃之之記...

後高  
 漢高  
 甲府  
 加食  
 總念  
 孫粟  
 然高  
 吳素  
 持筆









太夏危楳蘇秤 月並三乃合

天 地 人

外 七午一乃 口五二乃 庚

外 七午一乃 口五二乃 庚

外 七午一乃 口五二乃 庚

利乃を四と... 外 七午一乃 口五二乃 庚

外 七午一乃 口五二乃 庚

外 七午一乃 口五二乃 庚

外 七午一乃 口五二乃 庚

利乃を四と... 外 七午一乃 口五二乃 庚

Vertical handwritten text columns on the right page, including names and descriptions.

Horizontal handwritten text at the bottom of the right page, including '巴枝', '改枝', '神', etc.











大正 八

紅のちの... 花の... 樹の... 枝の... 葉の... 実の... 皮の... 根の... 茎の... 花の... 葉の... 実の... 皮の... 根の... 茎の...

花紅 樹皮 樹葉 樹實 樹根 樹茎 花紅 樹皮 樹葉 樹實 樹根 樹茎

紅のちの... 花の... 樹の... 枝の... 葉の... 実の... 皮の... 根の... 茎の... 花の... 葉の... 実の... 皮の... 根の... 茎の...

花紅 樹皮 樹葉 樹實 樹根 樹茎 花紅 樹皮 樹葉 樹實 樹根 樹茎







太虚庵極品評

月五三台合

十月分

吳地人

外 華味 秀同 味に 他奉 一花  
 外 古庵 良外 南谷 松枝 狂山  
 外 全  
 外 全  
 外 全

外 華味 秀同 味に 他奉 一花  
 外 古庵 良外 南谷 松枝 狂山

外 全  
 外 全  
 外 全

外 華味 秀同 味に 他奉 一花  
 外 古庵 良外 南谷 松枝 狂山

外 華味 秀同 味に 他奉 一花  
 外 古庵 良外 南谷 松枝 狂山

外 全  
 外 全  
 外 全

外 華味 秀同 味に 他奉 一花  
 外 古庵 良外 南谷 松枝 狂山

外 華味 秀同 味に 他奉 一花  
 外 古庵 良外 南谷 松枝 狂山

外 全  
 外 全  
 外 全

外 華味 秀同 味に 他奉 一花  
 外 古庵 良外 南谷 松枝 狂山

山一宮と云ふは... 松あり... 中...

松あり... 中... 松あり... 中...

月... 松あり... 中... 松あり... 中...

松あり... 中... 松あり... 中...







神といひや、花のけさるるを  
なほとほしき心をばしるる

種  
松

十月や、ほのけさるる家の  
まをしのほのけさるるをばしるる

翠  
月  
一  
松

入舟のくちしるるをばしるる  
いよとけさるるをばしるる

交  
松

あふまふふふふふふふふふ  
いよとけさるるをばしるる

松  
松

山  
いよとけさるるをばしるる

松  
松

幻遊庵

幻遊庵奥佛坊先生評

月天句集

癸卯十月分

巴連







新編千代下二一古本の故紙  
... (Main body of handwritten text on the right page)

如賀堂  
武學  
高  
... (List of names or locations)

静春  
... (Bottom section of handwritten text on the right page)

... (Main body of handwritten text on the left page)

加賀堂  
... (List of names or locations)

... (Bottom section of handwritten text on the left page)













Handwritten text in vertical columns on the right page, likely a commentary or a list of items.

Small characters and symbols at the bottom of the right page, possibly a list of names or a summary.

Handwritten text in vertical columns on the left page, continuing the content from the right page.

Small characters and symbols at the bottom of the left page, corresponding to the text above.

天正七年  
西暦一六一八年  
三月廿一日  
由緒書  
此書は  
徳川幕府  
の御用書  
に依りて  
撰録せり  
其の旨は  
徳川氏の  
御徳を  
讃揚し  
御治政の  
善美を  
述べて  
御意を  
宣はせし  
事なり  
其の書は  
御用書  
に依りて  
撰録せり  
其の旨は  
徳川氏の  
御徳を  
讃揚し  
御治政の  
善美を  
述べて  
御意を  
宣はせし  
事なり

刊行  
徳川氏  
御徳を  
讃揚し  
御治政の  
善美を  
述べて  
御意を  
宣はせし  
事なり  
刊行  
徳川氏  
御徳を  
讃揚し  
御治政の  
善美を  
述べて  
御意を  
宣はせし  
事なり

徳川氏御徳を  
讃揚し  
御治政の  
善美を  
述べて  
御意を  
宣はせし  
事なり

